



JAPAN HERITAGE

日本遺産

# MITAKE SHOSENKYO GORGE STORY BOOK

神秘の溪と祈りの道

甲州の匠の源流

## 御嶽昇仙峽

～水晶の鼓動が導いた信仰と技、そして先進技術へ～

歩く、知る。  
昇仙峡を、  
奥ふかく。

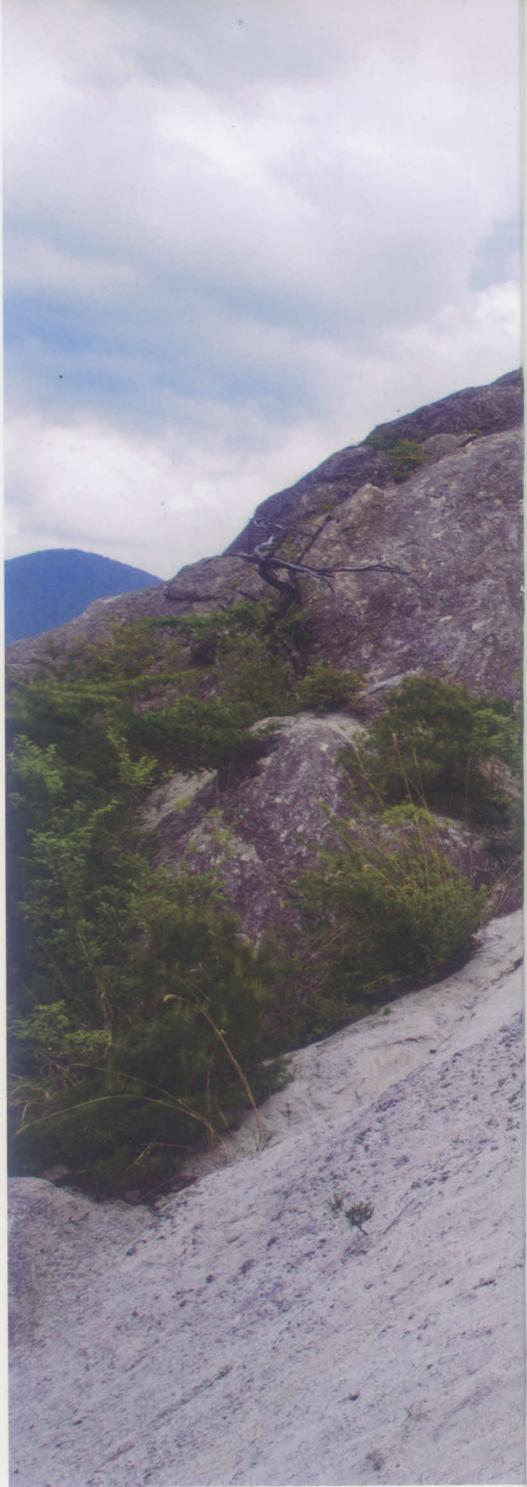
「アウトドア」や「パワースポット」という言葉が生まれるずっと前から、この渓谷は信仰の場として、また旅の目的地として、人々を惹きつけてきました。

御嶽昇仙峡は、さまざまな驚きと発見のある場所です。

想像力を刺激する不思議な岩や巨石、大小さまざまな滝の美しさ、水晶にまつわる独自の文化など、ここでなければ

出会えないものがたくさんあります。

好奇心を頼りに、いざ御嶽昇仙峡へ。古道を奥へと進むたびに、御嶽昇仙峡の知られざる魅力が見えてきます。





MITAKE  
SHOSENKYO GORGE  
STORY

なぜ人は、  
御嶽昇仙峡に  
惹かれるのか。

御

嶽昇仙峡を訪れた人たちに驚きを与えるのが、その

圧倒的な渓谷美です。迫力ある花こう岩の断崖や、昔の人が動物や食べ物などに見立てた不思議な形の岩は、私たちに自然の神秘を感じさせます。春を彩るミツバツツジや天鼓林の紅葉など四季の景観も見どころで、一年を通して散策を楽しむことができます。

御嶽昇仙峡には、ひとことでは語れない多様で文化的な魅力があり、時代を超えて多くの人々を惹きつけてきました。

古代より、多くの修験者が御嶽の古道を歩き、金峰山（蔵王権現）を目指しました。近世になると、金峰山の里宮である金櫻神社は境内や門前集落が発達し、多くの参拝者も集めるようになりました。また、甲州伝統の水晶文化も、御嶽昇仙峡一帯にルーツがあり、江戸時代後期になると「稼ぎ」としての採掘が行われました。近代に水晶の産出量は激減しましたが、加工技術は継承され、現在でも山梨県産の宝飾品は国内外の

人々を惹きつけています。

江戸時代に開削された御嶽新道は、御嶽昇仙峡が景勝地となる礎となりました。長い間、人の目に触れなかった御嶽昇仙峡の景勝が明らかになり、近代以降は日本を代表する景勝地として多くの観光客を集め続けています。

神秘的な景観や信仰の地としての歴史、そして現在にいたる文化の蓄積。御嶽昇仙峡はそうした時代の積み重なりを五感で実感できる場なのです。



甲州市教育委員会提供

大正時代にはすでに多くの団体旅行客が御嶽昇仙峡を訪れていた。



渓流と一体になった美しい風景が、訪れた人を楽しませる。

# そして古道へ。 修験者たちの 足跡をたどる。

## 御

嶽昇仙峽の奥にそびえる金峰山は、古代から中世にかけて多くの修験者が登った修行の場です。修験者たちは、御嶽道という参道を通って金峰山をめざしました。その道が現在、御嶽古道の上道と呼ばれている道です。しかし時代が移り、金峰山に登る修験者が減るにつれてこの道を歩く人は少なくなり、次第に荒廃していきました。

その後、金櫻神社に続く参道として、また神社周辺で暮らす人たちの生活の道として開かれたのが、御嶽古道の外道です。『甲斐国志』にも記されているように、その沿道は大和国の吉野山から移植された桜の木で彩られました。山岳修験の一大霊場である吉野と金櫻神社との深い結びつきを、この事実から知ることができます。

静かな自然の中を歩く御嶽古道は、歴史の空気を感じたい人にぴったりの散策路です。過去の時代と変わらない風景が、私たちを楽しませてくれます。

## Interview

順徳院山常説寺 住職 高橋 栄斉さん  
御嶽古道の会 会員

私が常説寺の住職になったのは2003年です。当時、御嶽古道の上道を歩く人は誰もおらず、藪が生い茂った状態でした。再び人が歩ける道にしたいという思いが地域の人たちの間で広がり、2017年に設立されたのが、私も会員である「御嶽古道を復元する会」(現「御嶽古道の会」)です。倒木を撤去するなどして道を拓き、金櫻神社まで歩けるように

に整備していきました。そうした活動が実を結び、常説寺を起点に往復約20キロを走るトレイルランニングのイベントなど、新たな取り組みも始まっています。道中にお地藏さんや道標などが残り、修験者が歩いた時代の名残を感じられることが、御嶽古道の魅力です。ゆっくりと歩きながら、この地の歴史を振り返っていただきたいと思います。



常説寺の前身は弘仁14年(823)に建立された台嶺山圓乗寺。参道の一の鳥居内にある最初の祈願所として修験者たちが訪れた。また、承久の乱の後、順徳上皇が金櫻神社へ勅使を遣わした際に奉納品を載せた「白輿」が残されている。

# 金櫻神社の 千五百年と、 未来への祈り。



## 金

櫻神社の本宮は、金峰山の山頂にある五丈岩です。古代に御祭神である少彦名命(すくなひこなのみこと)を祀ったことが起源とされています。金峰山は古くから信仰の対象であり、全国の修験者が修行をしました。

その里宮として、約1500年前に造営されたのが金櫻神社です。金峰山信仰の中心地として、近隣諸国からも参拝者が足を運びました。また、かつての金櫻神社は広大な社領を有し、甲斐国最大の一山組織として繁栄したことも知られています。神領の大部分を占める森林を「御森」と称し、その維持管理や育成に力を注いだが、神社一帯の景観形成につながっています。

長い年月をかけて育まれた桜の木々とともに金櫻神社を象徴するのが、御神木の「鬱金の櫻」です。黄金味を帯びた花を咲かせることから、民謡に唄われている「金の成る木の金櫻」とされてきました。もとは疫病を鎮めるために祀られた神社ですが、近年は金運上昇のご利益でも注目されています。

## Interview

### 金櫻神社 宮司 志村幹人さん

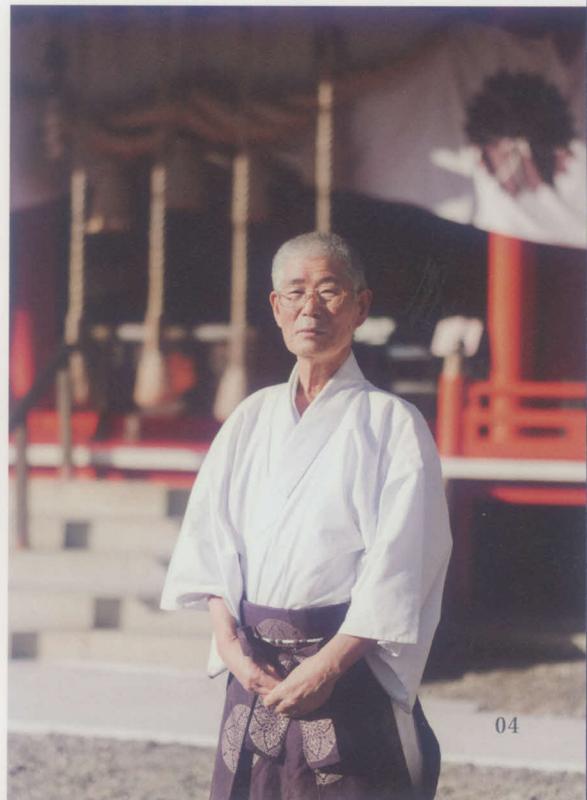
金櫻神社は、古代からの山岳信仰と深い結びつきのある神社です。この地域では長い間、山に対する信仰が受け継がれてきました。神道における信仰の対象は目に見えるものではなく、霊的な存在として感じるものです。そうした目に見えないものを当社の境内や金峰山の自然から感じていただき、精神的に受け入れていただけるものがあればうれし

く思います。

当社に来られた際にぜひご覧いただきたいのが、金峰山と富士山を望む拝所からの景色です。現在、地域の人たちの協力を得ながら山頂につながる遊歩道を整備し、桜の苗木を植える取り組みを進めています。1,000本を超える苗木を植え、いずれは金櫻神社一体を吉野の山と並ぶ桜の名所にしたいと思っています。



金櫻神社の周辺地域では、年中行事や民俗芸能が守り伝えられてきた。甲府市指定無形民俗文化財である「大々神楽」や山梨県指定無形民俗文化財である「黒平の能三番」などが奉納されるほか、最近では地元の高校生が吹奏楽の演奏会を行うなど、多様な取り組みが行われている。



# 近代・現代へ。 景勝地としての 昇仙峡の発展。

**江** 戸時代に御嶽古道の外道が開かれた後、多くの人が御嶽昇仙峡を訪れました。この道を通って金櫻神社を訪れた文人や画家も多く、浮世絵師・歌川広重は『旅中心おほへ』の中で外道の風景を描いています。

その後、御嶽新道の開道に伴って知られるようになったのが、景勝地としての御嶽昇仙峡の魅力です。明治・大正時代には金櫻神社の門前で開業する旅館が増え、県外からも大勢の参拝者が訪れるようになりました。さらに、大正12年(1923)の国の名勝指定や昭和2年(1927)の「日本二十五勝」への選定などを通じて景勝地として知られるようになり、旅行者も増えていきます。御嶽昇仙峡は戦後も人気を博し、昭和39年(1964)の昇仙峡ロープウェイ開業も観光地としての盛り上がりの後押ししました。現在に通じる景勝地はこうした歴史の中で形成されていったのです。御嶽昇仙峡の壮大な景色には、訪れた人を惹きつける力があります。自然環境の豊かさや信仰の地ならではの厳かな雰囲気も、今も人々を魅了しています。

## Interview

### 民芸茶屋大黒屋 店主 相原勝仁さん

古くから金櫻神社には、遠方から大勢の参拝者が訪れました。その門前でそばを提供したのが、御岳そばの始まりです。私の家がかつて神社の門前で「大黒屋」という旅館を営んでおり、宿泊された方に御岳そばを提供していました。私が現在営んでいる民芸茶屋大黒屋は、その歴史を引き継いでいることとなります。

私の家は代々金櫻神社と深い関わりがあり、私自身も現在、金櫻神社の氏子総代を務めています。金櫻神社はかつて年間75もの祭りが行われていたほど多くの行事があり、今も2月の節分祭は300名を超える参拝客でにぎわいます。御岳そばの味を楽しんでいただくとともに、地域に受け継がれた文化を知っていただけたらうれしく思います。



御岳そばの特徴は、そばが太く薬味に辛味のあるねずみ大根を使っていること。その昔ながらの味を楽しめる貴重な店が、相原さんの営む大黒屋だ。金櫻神社周辺の食文化と歴史を感じられる店として、県内外のお客さんに親しまれている。

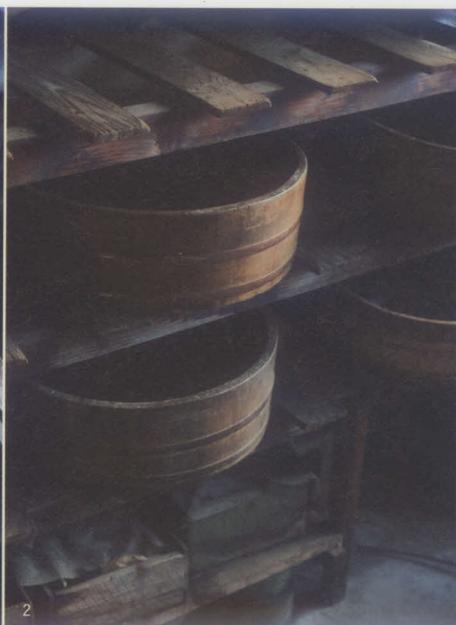
# 伝統と挑戦。 水晶採掘と 加工の歴史。



## 山

梨における水晶の歴史は古く、約3万年前の旧石器時代の遺跡から水晶が出土されています。縄文時代の石器や玉などの装飾品の材料として利用されてきました。しかし、古墳による埋葬がされなくなるのに伴い、副葬品としての装飾品も造られなくなり、これらを生産してきた職人集団も消滅し、その技術は失われていったものと考えられます。

水晶が再び脚光を浴びるのは江戸時代に入ってから。金峰山周辺には多数の水晶鉱山が存在し、黒平、向山、乙女の各鉱山では、江戸時代後期から明治時代末期にかけて、盛んに採掘され、全国でも有数の水晶産地として知られるようになります。このころより、御嶽村の人々も水晶採掘を行うようになります。村人たちは、採掘だけでなく、水晶の加工も行うようになり「甲州の匠の源流」の礎となる優れた加工技術者の誕生につながっていきました。



1 | コマと呼ばれる木製の先端工具を使い分けながら、思い描く形状に加工する。

2 | 水晶の研磨には研磨剤の金剛砂が使われる。長年使い込まれた桶の中には粒度の異なる金剛砂と水が入っている。「削り」「磨き」の工程で少しずつ粒度を細かくしていく。

3 | 昔ながらの細工台を使った加工が特徴。

4 | やわらかみのある立体彫刻が生まれる。完成まで約3か月を要する製品も。



有限会社土屋華章製作所提供

## 甲

州では、江戸時代からすでに水晶加工が行われていたと言われています。さらに、江戸時代後期ごろに京都から研磨技術が伝えられたという伝承もあります。水晶加工技術が発展していくにつれて、御嶽昇仙峡の人々にとつて、水晶は重要な産業となり、金峰山参拝者向け土産物の中心となりました。やがて、水晶の研磨・加工技術の高まりとともに、根付・緒締などの装飾品や眼鏡用レンズといった付加価値をもつ製品の生産も始まります。水晶の採掘が行われなくなっても、水晶産業はこの地で発展し、継承されていったのです。



このような発展の歴史は江戸時代の文献からもわかります。嘉永7年(1854)版行の『甲府買物独案内』には、水晶製品を製作・販売する業者の広告が掲載されています。そのうちの一軒が、土屋華章製作所の初代である土屋宗助です。その後、2代目の宗八は水晶の眼鏡を製品化し、3代目の松華は水晶印鑑を製造するなど、水晶製品の領域を広げました。さらに4代目の華章は、モーターで動く研磨加工用機械を開発し、より繊細で創造性豊かな彫刻を可能にしました。

人々の手で受け継がれてきた水晶の加工技術は、やがて、他の宝石の加工も可能にしていきました。そして、さまざまな加工技術が甲府を中心に開発され、貴金属工芸の技術と融合し、ジュエリー産業として発展し、いつしか「宝石の街」と呼ばれるようになりました。昭和56年(1981)には全国で唯一の公立ジュエリー専門学校である「山梨県立宝石美術専門学校」が開校し、現在まで多くの人材を輩出しています。また、水晶が持つ性質を利用し、工業用製品にも生かされ、スマートフォンなどの電子機器にも応用されています。御嶽昇仙峡をルーツとする水晶加工の技術や文化は、確かな形で現在へとつながっているのです。

## Interview

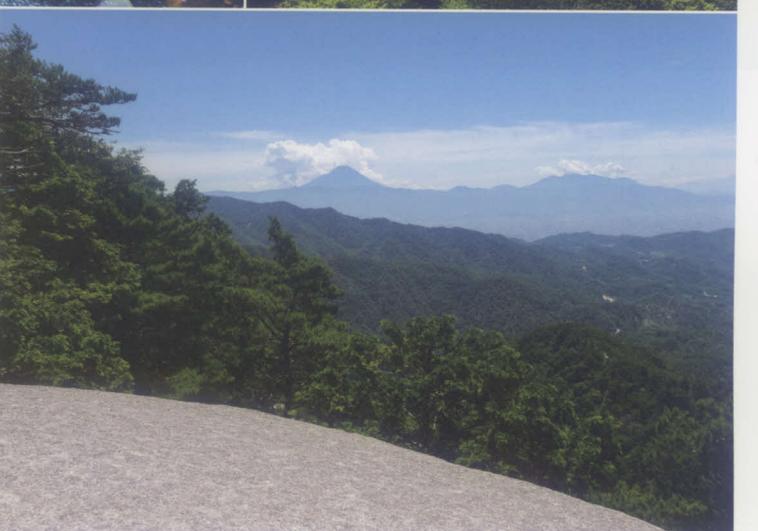
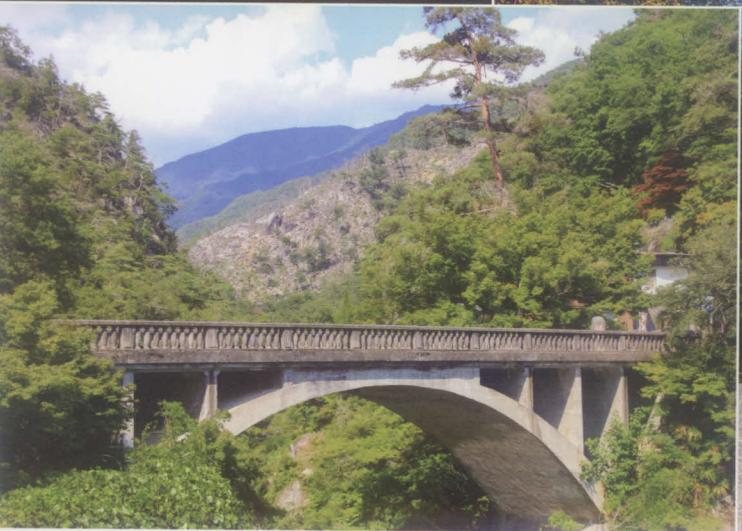
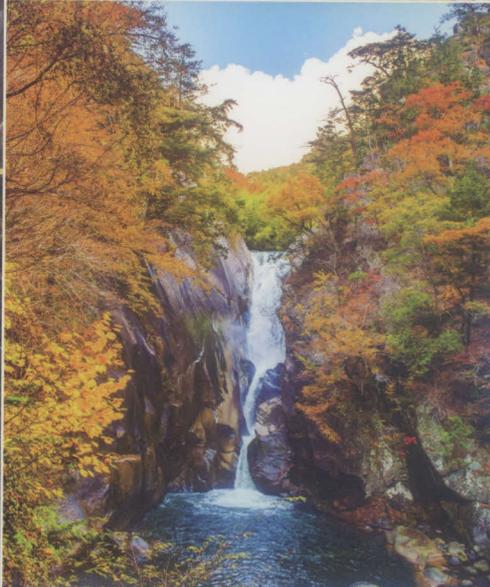
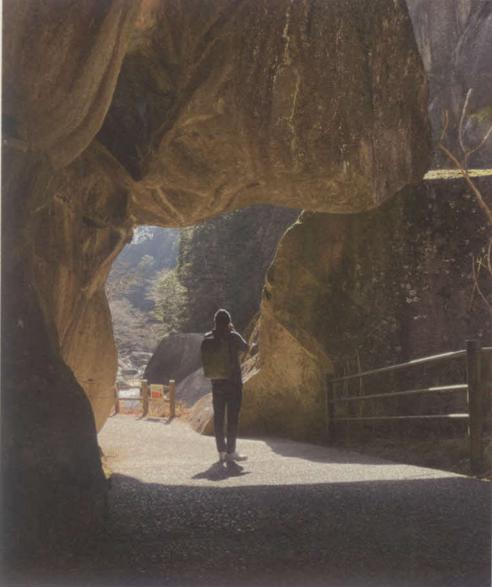
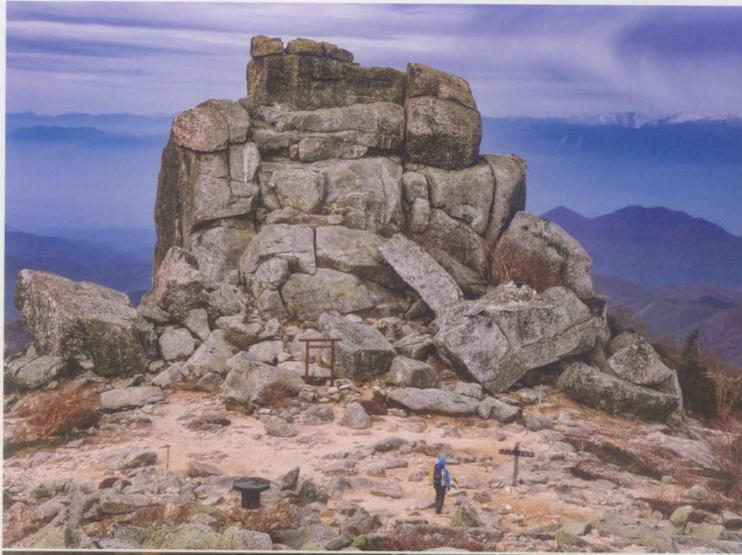
### 土屋華章製作所 代表取締役 土屋 隆さん

土屋華章製作所の歴史の始まりは、初代の土屋宗助が文政4年(1821)に水晶製品の加工販売を始めたことです。以来7代にわたり、伝統的な技術を守りながら新しいことへの挑戦を続けてきました。現在も「温故知新」をテーマに、時代のニーズに合ったものづくりをしています。

水晶の鉱石は六角の柱のように角張ったもの

ですが、それを職人の手でやわらかいフォルムに作り変えていきます。無機質な物質が、人の手のぬくもりを感じられる製品に変わっていくことに、水晶加工の醍醐味があります。工程を簡略化せず、金剛砂を使った昔ながらの製法で加工することが、当社のこだわりです。この技術を次の時代に伝承していくことが、私たちの使命だと思っています。





1	2	
3	4	5
		6
7	8	

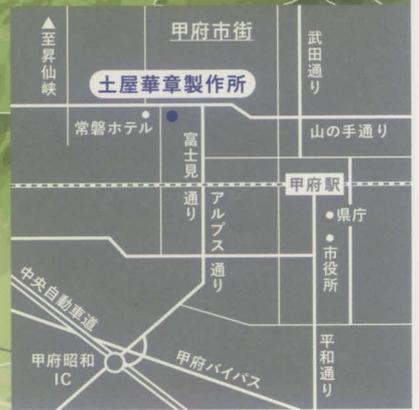
- 1 | 金峰山五丈岩
- 2 | 覚円峰
- 3 | 石門
- 4 | 仙娥滝
- 5 | 金櫻神社大々神楽
- 6 | 昇仙峡ロープウェイ
- 7 | 長潭橋
- 8 | 弥三郎岳山頂から見る富士山

# 御嶽昇仙峡

## M A P



※国立公園内(自然公園法に基づく規制対象)のため、水晶は採取禁止となっています。



## 昇仙峡のストーリー

「甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡

～水晶の鼓動が導いた信仰と技、そして先進技術へ～」

昇仙峡一帯の山地は、水の塊と信じられていた水晶を産出する水源信仰の地であり、地域を流れる荒川上流を訪ねると、悠久の時をかけた浸食により形成された大小の滝や巨石、奇岩に驚かされます。

水が作った芸術品ともいえるこの渓谷美は、江戸時代末期に行われた新道開削により奇跡的に出現したものですが、地域の人々の熱意により日本有数の景勝地として磨きあげられてきました。

そして、昇仙峡一帯で産出された豊富な水晶とその加工技術は、匠の技として日本一のジュエリー産業の基盤となり、更には人工水晶製造技術へと繋がってスマートフォンなどの電子機器に使用されるなど、過去から現代に至る私たちの生活を支えているのです。



### ■電車でお越しの場合

JR甲府駅	タクシー(車)で 約30分	金櫻神社
JR甲府駅 南口 4番乗り場	バスで 約40分	グリーンライン 昇仙峡
	約60分	昇仙峡滝上

### ■お車でお越しの場合

双葉スマートIC	車で 約30分	金櫻神社
甲府昭和IC	約35分	



日本遺産ポータルサイト  
甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡  
<https://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/stories/story091>

昇仙峡地域活性化推進協議会

〒400-8585 山梨県甲府市丸の内1丁目18番1号(甲府市観光課内)

TEL:055-237-5702